

支え合い 地域づくり通信

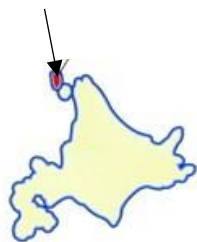
令和5年9月発行
第13号
NPO 法人エンパワメント輝き

8月5日、青森県南部町で開催された「なんぶ地域づくり勉強会」に参加しました。

午前は十和田市立中央病院の医療連携室勤務の柴崎陽介氏から、北海道礼文島で5年間勤務した経験についての講話、午後は南部町ふれあいサロン会員による物作りを体験しました。

日本最北の
有人島

礼文島



礼文島は、人口が2,352人という小さな島でありながら、漁協を中心に地域の老若男女すべてが協力し合う文化が根づいています。

柴崎氏は、「地域を作っているのはそこに住む人々であり、もともとある資源を大切に、これを次の世代に引き継ぐことが大切だ」と話しました。

南部町は、人口と世帯数が洋野町とほぼ同じです。講話では、今後進学や就職にともない若年層の転出は避けられず人口減少は進んでいきます。

今あるつながり（地域のきずな）を大事にすること、いわば「きずな貯金」をためていくことが重要であると話しました。



勉強会を通し、これまで受け継がれてきた伝統や文化を学び、それを子どもたちにつないでいくことの大切さを強く感じました。

南部町の通いの場合は、グラウンドゴルフ、茶話会、健康体操、趣味活動など、地域住民が主体となって、さまざまな活動を行っています。

今回体験した南部地区のふれあいサロンを紹介します。

ふれあいサロン

「いろはの居」

＊ サロンを作るきっかけは？

「みんなが集まる場所がない」「ゆっくり話をするところがない」という声があったこと。

＊ どんな活動をしているの？

ものづくり（ひょうたんランプ・一閑張りなど）や体操、近所の草刈りなど地域貢献活動も行っている。

ひょうたんランプにチャレンジ

材料費500円。ひょうたんの中身をくりぬき乾燥させたものを使います。

せんまいどうし、画びょう等を使って、ひょうたんに穴を開けました。最初は悩みながら行いましたが、慣れてくると楽しくなり、たくさん穴を開けてしまいました。本当に楽しい時間でした！



特に有名です！



種市駅周辺の活用について

8月7日、第8回「たねいちかだる会」を開催しました。その中で、駅前に喫茶店など集える場所があればいいのではないかとという話題が出ました。そこで、3月から無人化した種市駅と、駅前にあるナニヤトヤラ館について情報収集を行いました。

種市駅

種市駅前には、町営バスのバス停とタクシー乗り場があるため、出発時間を待つ際など、待合室は利用者にとって必要な場所です。

駅舎内は、自動販売機が設置され、ゆったり座れる椅子が並んでいます。

この駅舎は、利用者の交流の場にもなっています。観光案内ができる場として活用できれば、地域の観光名所や特産品などを、より多くの人に知ってもらうことができるとは思いません。



ナニヤトヤラ館

現在、2階がゲストハウスの客室となっていて、予約制で営業しています。1階の「お休み処・観音亭」と「カフェサロン・ド・ヤラ」は、今は営業していませんが、レストランにできるようにシェフを募集しているそうです。

オーナーの横手さんは、「地域の活性化に貢献したい」という熱意を語ってくれました。

1階には、カラオケ設備と漫画本等が完備しているので、子どもから大人まで楽しめる場所になればいいなと思いました。

9月29日は、かだる会メンバーと一緒に、軽米で開催される「トコトコ軽米広場」という常設型の居場所の視察に行きます。これからも、かだる会のメンバーと共に、居場所のあり方や、駅の活用等について、話し合っていきます。

